※令和４年度以降入学生用

学校番号	3032

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書道Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰの授業で学んだことを発展させて、文字の表情の違いによる表現の違いを学びましょう。
・生徒各々が個性豊かな作品を完成させる充実感や達成感を味わいましょう。
・グループワークを通し、自らの作品の表現の幅を広げましょう。
・身近に飾れる作品を作ることで、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

A)　書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けようとする。
B)　書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や所の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
C)　主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	仮名の書	・書道Ⅰの学習を踏まえ、古筆の臨書 ・変体仮名に親しむ ・創作 ・散らし書き	a:仮名の書を構成する様々な要素について理解し、表現技法を高めようとしている。 b:連綿や墨継ぎの効果を意識し、作品全体としての表現を工夫しその良さを味わっている。 c:仮名文字での創作に意欲を持ち主体的に取り組もうとしている。	作品	プリント 作品	観察 プリント
２学期	漢字の書	・書道Ⅰの学習を踏まえ、古典の臨書 ・楷行草隷篆書体 ・篆刻、刻字作品の制作 ・創作	a:各書体における用筆・運筆について理解しその技法を身に付けようとしている。 b:創作における書体の効果や、配字・彩色を表現意図に合わせ工夫している。 c:表現意図に合う言葉を選択し、主体的に創作活動に取り組もうとしている。	作品	プリント 作品	観察 プリント
３学期	漢字仮名交じりの書	・古典を生かした表現 ・言葉と書の調和 ・自分の意図に合わせた表現 ・創作	a:漢字かな交じりの書における調和について理解し、古典の表現技法を自らの作品に生かそうとしている。 b:表現意図や形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c:漢字かな交じりの書の幅広い表現方法の楽しさを味わい、主体的に作品制作に取り組もうとしている。	作品	プリント 作品	観察 プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度